

■資料 14：自転車の路肩走行指導強化によるメリット・デメリット

◇自転車の路肩走行指導強化により、歩行者、自転車、バス、クルマのそれぞれの視点から考えると、どのような変化を及ぼすのか、以下の表に整理しました。
 ◇下表をみると、「今まで通り」ではデメリットの数が多くなっていますが、「路肩（バスレーン左端）走行」ではメリットの数が多くなっています。
 ◇特に、歩行者や自転車にとっては、自転車の路肩（バスレーン左端）走行を徹底することで、狭い歩道を走行するよりも安全性は高まるものと考えられます。

【自転車の路肩走行指導強化によるメリット・デメリット】

□：メリット、■：デメリット

| | 今まで通り【…無秩序・道交法違反多発】 | 路肩（バスレーン左端）走行【…道交法の徹底】 |
|--------------------------|---|---|
| 歩行者 | <ul style="list-style-type: none"> ■歩道を安心して利用できない（自転車との衝突事故の危険がある）。 ■小学生の登下校や高齢者の外出が安心してできない。 | <ul style="list-style-type: none"> □歩道上を安全に安心して通行できるようになる。 □小学生の登下校や高齢者の外出が安心してできるようになる。 |
| 自転車 | <ul style="list-style-type: none"> ■歩道上で、歩行者との衝突事故の危険がある。 ■逆走（右側通行）や友達としゃべりながらの並進が行われる【道交法違反】。 ■歩道を走行すると、路地から出てくるクルマとの出会い頭の衝突事故の危険がある。 ■沿道施設に出入する人との出会い頭の衝突の危険がある。 ■自転車の走行位置が不明確であり、どこを走ればよいかわからない。 □車道を走行するよりも、歩道を走行した方が安心感がある【道交法違反】。 □歩行者やクルマの間を縫って走行することにより、ほとんど止まらずに走行できる【道交法違反】。 □右側・左側関係なく自由に走行できる【道交法違反】。 | <ul style="list-style-type: none"> □歩行者との事故の危険が少なくなる。 □自転車の走行ルールの徹底が図られる。 □路地から出てくるクルマとの事故の危険性が低くなる。 □沿道施設に出入する人との出会い頭の衝突の危険性が低くなる □自転車の走行位置を明確に示すことができる。 ■歩道を走るよりも、車道を走る方が危ない感じがする。 ※現状として、自転車は車道を走行している場合が多いことから、自転車とバス及びクルマとの事故の危険性については変わらないと考えられる。 ■バス停車時や路上駐車がある場合に、一時停止等のルールを守らなければならないので、停止する回数が増える。 ■これまでのように自由度の高い運転はできなくなる。 |
| バス | <ul style="list-style-type: none"> ■バス停付近では、狭い歩道上で、バス乗降客、歩行者、自転車が交錯している。また、自転車が歩道上を走行することで、バス乗降客との衝突事故の危険がある。 ■自転車が逆走してくる場合がある【道交法違反】。 □朝のバス専用レーンがよく守られており、自転車は歩道上を走っていることから、快適に運行することができる。 □バスの定時性が保たれている。 | <ul style="list-style-type: none"> □バス停車時には、自転車はバスの後ろで一時停止するか、自転車から降りて歩道上を通過するので、バス乗降客の危険がなくなる。 □左側通行の徹底により、自転車の逆走がほぼなくなる。 ■自転車がバスレーン左端を走行することで、時間帯によっては自転車を追い越せず、自転車の後ろを走行しなければならない場合がある。 ■自転車の後ろを走ったり、自転車を追い越す回数が増えるので、バスの定時性に多少影響する場が想定される（実験ではほとんど影響なし）。 |
| クルマ (バス以外) (バイク含む) | <ul style="list-style-type: none"> ■路地から国道 159 号に出ようとする、歩道上をノンストップで走行する自転車との出会い頭の衝突事故の危険がある。特に、路地から出ようとする際は、右側から来るクルマに気をとられる場合が多く、歩道を逆走してくる自転車との衝突の危険性が高い【道交法違反】。 ■自転車がどこを走行してくるかわかりにくい（歩道から突然車道に降りてくる場合がある）。 □自転車は歩道上を走行する機会が多いので、快適に走行することができる。 □朝のバス専用レーンの時間帯は、バスが右側車線に入ってくることが少ないので、快適に走行することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> □路地から国道 159 号に出る際、自転車との出会い頭の衝突事故の危険性が低くなる。 □自転車の走行位置や走行方向が明確化されるので、自転車の存在を意識しやすくなる。 ■左側車線を走行する場合、自転車の後ろを走ったり、自転車を追い越す回数が増えるので、これまでより走りにくくなる。 ■朝のバス専用レーン時間帯では、バスレーンを順守していても、バスが自転車を追い越す際に右側車線に入ってくることが多くなり、これまでよりやや走りにくくなる。 |
| 集 計 | メリット：7、デメリット11 | メリット：11、デメリット：7 |